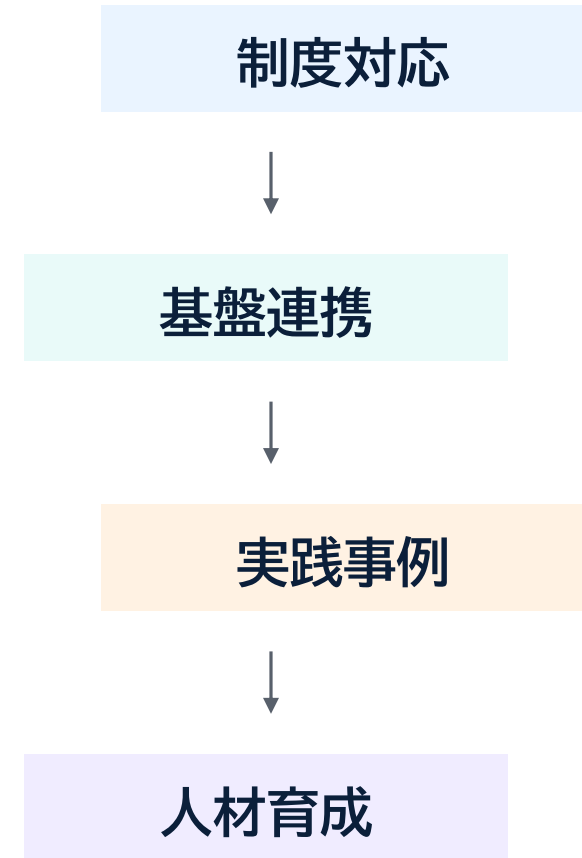


大阪大学における 研究データ管理・利活用の実践と 人材育成

制度対応・基盤連携／実践事例・データスチュワード型人材をつなぐ

甲斐 尚人

大阪大学 D3センター・オープンサイエンス推進室



研究データ対応は研究者個人の努力だけでは完結しにくい

政策要請が増え、研究現場と支援現場の双方が複雑化している



研究者側の課題

- 必要な対応や不足している管理に気づきにくい
- 何を・いつ・誰に相談すべきか分かりにくい
- 保存・共有・公開を研究者だけで判断するのは難しい など

支援者側の課題

- 制度・技術・倫理・分野知識が分散
- 支援が担当者の経験や属人的判断に依存
- 個別支援で得た知見が組織に蓄積されにくい など

大学としての課題

- 研究データの状況・価値を全学で把握しにくい
- 公開／非公開・保護／利活用をどう判断するか
- 持続可能な支援体制・制度・基盤をどうつくるか など

本学のオープンサイエンス推進体制

オープンサイエンス推進室を中核に、研究データポリシーの策定、基盤連携・人材育成を全学横断で推進するとともに、実践部局におけるユースケースを通じて、研究データの公開・利活用に関する論点や課題の抽出・可視化を進めている。

◆ 研究推進本部 オープンサイエンス推進室

役割：オープンサイエンス推進、各実施項目の進捗管理 教員：9名、職員：3名	
室長	研究担当理事
副室長	D3センター 招へい教授
室員	① D3センター(図書館系)准教授 ② D3センター(サイバーメディアセンター系)教授 ③ D3センター(サイバーメディアセンター系)准教授 ④ D3センター(データリテラシティ機構系)教授 ⑤ 経営企画オフィス 教授 ⑥ コアファシリティ機構 教授 ⑦ 附属図書館長 ⑧ 研究推進部長 ⑨ 情報推進部長 ⑩ 附属図書館事務部長 オープンサイエンス 推進を支える主要な 事務組織として連携
オブザーバー	・社会技術共創研究センター長・教授 ・共創機構 教授
事務担当	研究推進部研究企画課

本学のオープンサイエンス推進体制

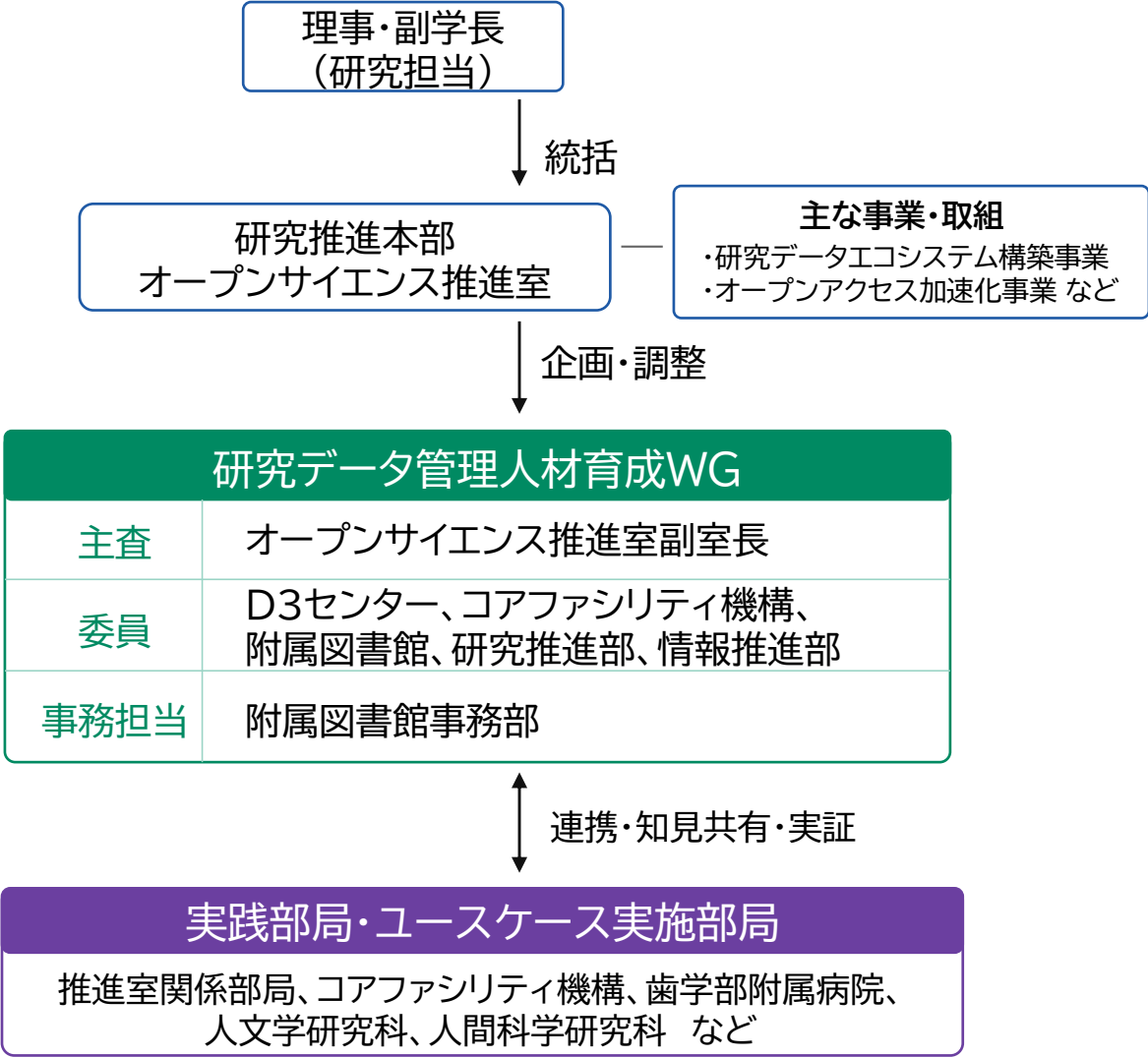
オープンサイエンス推進室を中核に、研究データポリシーの策定、基盤連携・人材育成を全学横断で推進するとともに、実践部局におけるユースケースを通じて、研究データの公開・利活用に関する論点や課題の抽出・可視化を進めている。

◆ 研究推進本部 オープンサイエンス推進室

役割:オープンサイエンス推進、各実施項目の進捗管理 教員:9名、職員:3名	
室長	研究担当理事
副室長	D3センター 招へい教授
室員	① D3センター(図書館系)准教授
	② D3センター(サイバーメディアセンター系)教授
	③ D3センター(サイバーメディアセンター系)准教授
	④ D3センター(データリテラシティ機構系)教授
	⑤ 経営企画オフィス 教授
	⑥ コアファシリティ機構 教授
	⑦ 附属図書館長
	⑧ 研究推進部長
	⑨ 情報推進部長
	⑩ 附属図書館事務部長
オブザーバー	・社会技術共創研究センター長・教授 ・共創機構 教授
事務担当	研究推進部研究企画課

オープンサイエンス
推進を支える主要な
事務組織として連携

◆ 基盤連携・人材育成の推進体制



相談窓口を通じて、現場の課題を把握する仕組みを整備

ポータルサイトを入口として、研究者からの相談を集約し、研究推進部・情報推進部・附属図書館・D3センター等が連携して対応する体制を構築した

情報提供と相談受付の入口

大阪大学オープンサイエンス推進室ポータルサイト

<https://osoa-portal.osaka-u.ac.jp/>



オープン
サイエンス

オープン
アクセス

研究データ
管理

教材提供

お問い合わせ

- 教材、制度、学内手続きに関する相談窓口を一元化
- 問い合わせフォームを通じて支援ニーズを把握

1 相談受付

ポータルのお問い合わせフォームから受け付け

2 担当へ振り分け

実務部門

研究推進部・
附属図書館

教員組織

D3センター・
コアファシリティ機構・
附属図書館

3 回答・支援

担当部署・組織から回答・支援を提供し、必要に応じてフォロー

相談窓口を通じて、現場の課題を把握する仕組みを整備

ポータルサイトを入口として、研究者からの相談を集約し、研究推進部・情報推進部・附属図書館・D3センター等が連携して対応する体制を構築した

情報提供と相談受付の入口

大阪大学オープンサイエンス推進室ポータルサイト

<https://osoa-portal.osaka-u.ac.jp/>



オープン
サイエンス

オープン
アクセス

研究データ
管理

教材提供

お問い合わせ

- 教材、制度、学内手続きに関する相談窓口を一元化
- 問い合わせフォームを通じて支援ニーズを把握

1 相談受付

ポータルのお問い合わせフォームから受け付け

2 担当へ振り分け

実務部門
研究推進部・
附属図書館

教員組織
D3センター・
コアファシリティ機構・
附属図書館

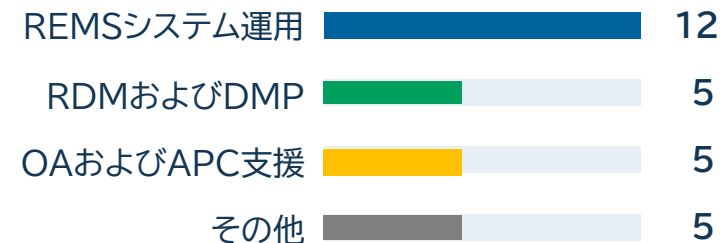
3 回答・支援

担当部署・組織から
回答・支援を提供し、
必要に応じてフォロー

1年間の相談実績

27
件

ポータルサイトの
お問い合わせ経由
RDM・OA・学内システム
等の実務相談



DMP、GakuNin RDM/JAIRO Cloud、
Green OA・著作権相談

ポリシー策定①から、実務上の空白を埋める事例開発②へ

オープンサイエンス推進室を中心に研究データポリシーを策定し、公開・利活用に関する未整備の論点について、実践事例を通じて課題表出化を進めている。

① ポリシー策定

大阪大学研究データポリシー

- 研究データ管理計画を策定する
- 研究データを適切に取得・収集、保存する
- 可能な限り研究データを社会に公開し、その利活用の促進に努める

※ポリシーでは、以下のルール等に従い、公開・利活用することを規定
(現行規定とのバッティングはなく現行規定を包括する文脈)

研究データの公開に関する法令・学内規則

個人情報保護法、外国為替及び外国貿易法、経済安全保障推進法、秘密保持契約、外国の知的財産法やEU一般データ保護規則などの個人情報の保護に関わる法規など

研究データの利活用に関する法令・学内規則

発明:特許法、[大阪大学発明規程](#)

データベース:著作権法

ノウハウ:不正競争防止法(一部)

臨床研究データ:薬機法・臨床研究法、[大阪大学臨床研究データ利用、許諾等規程](#)

研究成果有体物:薬機法・臨床研究法、[大阪大学研究成果有体物規程](#)

データの売買も研究者の自由?(大学の戦略に従う必要はない?)

データ保存するも破棄するも自由?(研究不正が発生したときどうする?)

大学の戦略資源に成り得るデータも無償で公開していい?

空白部分のルール作りが課題
([オープンアンドクローズ戦略](#))

ポリシー策定①から、実務上の空白を埋める事例開発②へ

オープンサイエンス推進室を中心に研究データポリシーを策定し、公開・利活用に関する未整備の論点について、実践事例を通じて課題表出化を進めている。

① ポリシー策定

大阪大学研究データポリシー

- 研究データ管理計画を策定する
- 研究データを適切に取得・収集、保存する
- 可能な限り研究データを社会に公開し、その利活用の促進に努める

※ポリシーでは、以下のルール等に従い、公開・利活用することを規定
(現行規定とのバッティングはなく現行規定を包括する文脈)

研究データの公開に関する法令・学内規則

個人情報保護法、外国為替及び外国貿易法、経済安全保障推進法、秘密保持契約、外国の知的財産法やEU一般データ保護規則などの個人情報の保護に関わる法規など

研究データの利活用に関する法令・学内規則

発明:特許法、[大阪大学発明規程](#)

データベース:著作権法

ノウハウ:不正競争防止法(一部)

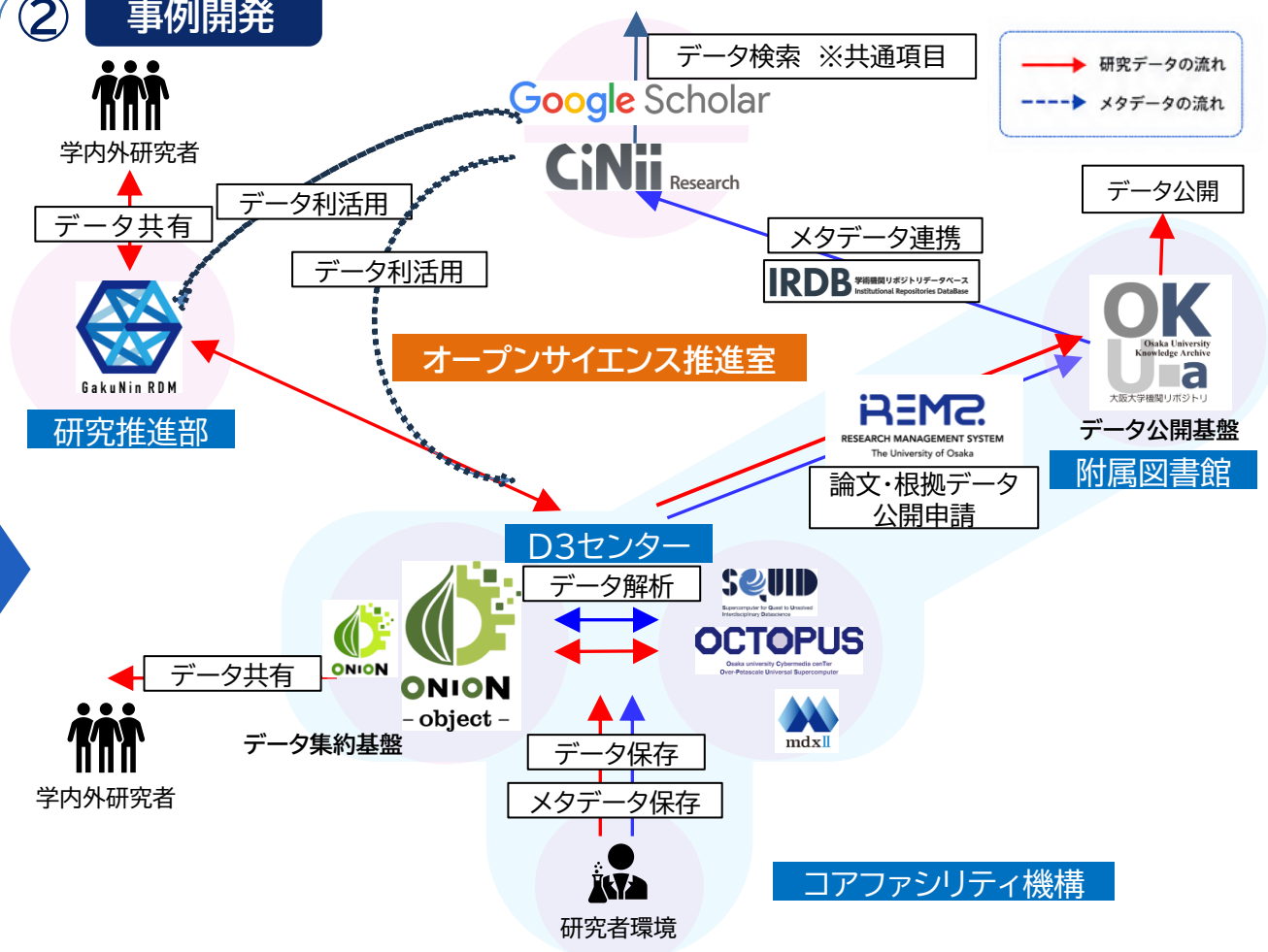
臨床研究データ:薬機法・臨床研究法、[大阪大学臨床研究データ利用、許諾等規程](#)

研究成果有体物:薬機法・臨床研究法、[大阪大学研究成果有体物規程](#)

- データの売買も研究者の自由?(大学の戦略に従う必要はない?)
- データ保存するも破棄するも自由?(研究不正が発生したときどうする?)
- 大学の戦略資源に成り得るデータも無償で公開していい?

空白部分のルール作りが課題
(**オープンアンドクローズ戦略**)

② 事例開発



- 研究マネジメント(図書館): ONIONを起点にREMS・OUKAへ接続
- 質的データ(人間科学研究科): ONIONに質的データを集約し、GRDM・OUKAと接続
- 測定データ(コアファシリティ機構・理科学研究科): 測定機器からのデータをONIONに自動集約し、共有・解析環境へ接続
- センシティブデータ(歯学部附属病院): ONIONを安全な集約先とし、解析環境へ接続

実践から見た課題: 基盤だけでは解けない「空白」を埋める

利活用を進めるほど、ルール・メタデータ・責任分担・運用知が重要になる

基盤でできること

- 保存場所を用意する
- 共有・公開の経路をつくる
- メタデータを流通させる
- 利用ログ・証跡を残す



人と組織が決めること

- 公開できる／できないの判断
- 同意・契約・知財・個人情報の確認
- データの責任者・保存期間・引継ぎ
- 分野に合ったメタデータと品質管理

実践から見た課題: 基盤だけでは解けない「空白」を埋める

利活用を進めるほど、ルール・メタデータ・責任分担・運用知が重要になる

基盤でできること

- 保存場所を用意する
- 共有・公開の経路をつくる
- メタデータを流通させる
- 利用ログ・証跡を残す



人と組織が決めること

- 公開できる／できないの判断
- 同意・契約・知財・個人情報の確認
- データの責任者・保存期間・引継ぎ
- 分野に合ったメタデータと品質管理

したがって、研究データ利活用は「システム導入」だけではなく、
現場の判断を支援できる運用設計と人材育成の問題も大きい

教材整備により共通理解と実践力を広げる

全職種共通の基礎理解から、DMP・Python・OA・分野別実践へ展開

RDM基礎

研究データのライフサイクル、保存・共有・公開の留意点

全職種共通の土台

DMP

資金配分機関が求めるDMPの目的・構成・記入ポイント

制度対応を研究計画へ翻訳

Python

整理・分析・可視化の基本、研究支援業務でのデータ処理

支援者の実務処理能力

即時OA

著作権・ライセンス・リポジトリ登録・メタデータ流通

公開支援の実践力

分野別実践

データタイプ別RDM

各分野に応じた管理実務

ねらい 「知っている」から「研究者の次の行動に翻訳できる」へ

体系的な教材整備により、支援人材を育成

基礎編・実践編の教材を整備し、全職種共通のRDM理解から、分野別・データ種別の実践的支援までをカバーする人材育成環境を構築

(RDM基礎編教材の開発・展開状況)

政策・制度 など	教材タイトル	教材内容	教材展開状況(2026年3月時点)	
			受講者数・アクセス数など	リポジトリ
オープン サイエンス ・RDM	オープンサイエンス時代における 研究データ管理基礎 (全職種共通) 開発・公開済み	研究データのライフサイクルに沿って、 研究データ管理の目的と全体像、各 段階において分野に共通する留意点 などを解説する。	- 新任教員研修受講者数 146名 - OUKAアクセス数 2,835件 - 学認LMS受講者数 76機関578名 - JPCOARアクセス数 3,851件 - 英語版・OUKAアクセス数 1,013件 「世界で活躍できる研究者育成プログラム総合支援事業 +αシリーズvol.35」 156名	https://hdl.handle.net/11094/101413
	図書館職員向け 開発済み・公開準備中	標準スキル表に基づき改修	附属図書館OSWGに試験的に展開	
	情報推進職員向け 開発中	標準スキル表に基づき改修	—	
データ 管理計画 (DMP)	研究データ管理計画 (DMP)とは 開発・公開済み	資金配分機関が研究者に求める DMP について、その目的、構成要素、 要求事項など解説するとともに、記 入する際のポイントなどを例示する。	- オープンサイエンス推進室HPで公開中 - 私立医科大学協会 令和7年度第1回研究支援推進委員会 約100名 など	https://osoa-portal.osaka-u.ac.jp/data-management/dmp-what/
データ処理 (Python)	研究データに関わる研究・教育支援 人材向けPython 活用 基礎研修 開発・公開済み	Python プログラミングの基礎を扱い、 データの整理・分析・可視化の基本 手法を解説し、研究データ管理および 研究支援業務におけるデータ処理能力 の向上を支援する。	- OUKAアクセス数 73件 - 講義動画・PDF: 阪奈機器利用ネットワーク SHARE The Resources - Python 活用基礎研修受講者数 55名	https://hdl.handle.net/11094/104304
オープン アクセス	オープンアクセスを巡る状況と大阪 大学におけるオープン アクセス支援 開発・公開済み	オープンアクセスの目的や方策、著作権 とライセンスに関する基本事項、機 関リポジトリへの登録方法などを解説 する。	- 新任教員研修受講者数 94名 - OUKAアクセス 150件 - 九州大学RDM支援ワークショップ「第1回: リポジトリシステムでのデータ公開」 35名 など	https://doi.org/10.18910/102690

RDM実践編教材の開発・展開状況

データタイプ	代表的 対象分野	教材タイトル	教材内容	教材展開状況(2026年3月時点)	
				受講者数・アクセス数など	リポジトリ
実験データ (画像・テキスト)	測定科学 (化学) 開発・公開済み	実験系研究データ管理の 実践(研究者向け・管理者 向け)	実験ノート, 測定データ, 装置出力データ 等の取得・整理・保存・共有方法を扱い, 再現性確保および長期保存を見据えた データ管理手法を解説する。	- OUKAアクセス数 510件 - 小規模分析室測定データ集約配信シ ステム導入支援	https://hdl.handle.net/11094/97150
テキストデータ	質的社会科学 (フィールドワーク) 開発・公開済み	エスノグラフィの研究 データ管理入門:オープン サイエンス時代のなかで	参与観察(エスノグラフィ)によるデータ の取得・収集および保存・共有を中心に, 倫理的配慮を含めた実践的手法を扱う。	- OUKAアクセス数 2,160件 - 学会報告資料 アクセス数156件 - エスノグラフィ・ラボ研究室学生試験 展開 8名 - 大学院講義(フィールド調査法特講) 33名	https://doi.org/10.18910/104332
	デジタル・ヒューマ ニティーズ (特別コレクション) 開発・公開済み	人文学研究者必見! テキ ストデータとTEI で描く 新たな研究ビジョン	TEI 技術を用いたテキストのアノテー ションおよび分析方法を解説し, 人文学 資料の構造化と再利用可能性の向上を 目指す。	- OUKAアクセス数 954件 - CLE受講者数 34名 - 英語版 (OUKA・136件、CLE未) - 大学院講義	https://doi.org/10.18910/101978
画像データ	デジタル・ヒューマ ニティーズ (特別コレクション) 開発・公開済み	人文学研究者必見! 研 究データ管理ことはじめ: OUKA で始めるIIIF 画 像の公開と利活用	IIIF 規格に基づく高精細画像化, メタ データ整備, 公開・利活用の方法を扱い, 文化資源のデジタル化と長期保存を支 援する。	- OUKAアクセス数 1,783件 - CLE受講者数 94名 - 英語版 (OUKA・112件、CLE未) - 大学院講義	https://doi.org/10.18910/97757
WEBデータ	デジタル人類学 開発・公開済み	デジタルメソッドの説明 書:ハイパーリンク・エスノ グラフィ篇	スクレイピング技術を用いた画像・テキ ストデータの取得・収集および加工・分析 方法を扱い, 研究利用に際しての法的・ 倫理的留意点もあわせて解説する。	- OUKAアクセス数 166件 「人文学とデジタル技術」(人文学研究 科) 102名 「外国語学部生のためのデジタルツル ル(A)」(外国語学部): 76名	https://doi.org/10.18910/103994
統計データ・ 位置データ (ビッグデータ)	量的社会科学 (統計学) 開発中	実験・調査データ管理の 実践:量的社会科学研究 における研究データ管理	実験・調査により取得される意思決定 データ, 属性データ, プロセスデータ等を 例に, 研究データライフサイクルに沿った 実践的手法を解説する。	- OUKA (予定) - CLE(予定)	

関西地区RDM人材育成コンソーシアムの立上げ

各機関が自律的にRDM支援を設計するための「学ぶ・共有する・つながる」場

学ぶ

- ・ 国際動向・政策
- ・ 倫理・研究公正
- ・ 技術・分野実践
- ・ 支援実装

共有する

- ・ 教材・事例
- ・ 説明資料
- ・ 相談対応の知見
- ・ 公開判断の蓄積

つながる

- ・ 大学間連携
- ・ 講師・実務者
- ・ 部局・職種横断
- ・ 継続的な相談網

各機関が、自機関の規模・資源・課題に応じて、RDM支援の体制と実践を設計できる

データスチュワード型人材育成プログラムの開講

研究データライフサイクル全体を見通し、各段階で必要となる支援内容や関係部署の役割を整理したうえで、研究者と支援職員をつなぎ、RDMの実践を支援できる人材。

研究者の困りごと

相談先が分からない

DMP、OA、公開可否、保存先、倫理審査などが別々の窓口に見える。

判断材料が不足する

分野差、個人情報、権利、二次利用、データ品質などを総合的に判断しづらい。

作業負担が増える

制度対応、メタデータ作成、公開手続、データ整理が研究活動に上乗せされる。

支援現場の困りごと

知識が部門別に分かれる

制度、倫理、技術、分野知識が分散し、相談対応が属人的になりやすい。

共通言語が不足する

研究者のニーズを支援部門の言葉に翻訳する仕組みが弱い。

継続的な育成が必要

単発の説明会ではなく、事例・教材・ネットワークを共有する場が必要である。

データスチュワード型人材育成プログラムの開講

研究データライフサイクル全体を見通し、各段階で必要となる支援内容や関係部署の役割を整理したうえで、研究者と支援職員をつなぎ、RDMの実践を支援できる人材。

研究者の困りごと

相談先が分からない

DMP、OA、公開可否、保存先、倫理審査などが別々の窓口に見える。

判断材料が不足する

分野差、個人情報、権利、二次利用、データ品質などを総合的に判断しづらい。

作業負担が増える

制度対応、メタデータ作成、公開手続、データ整理が研究活動に上乗せされる。



支援現場の困りごと

知識が部門別に分かれる

制度、倫理、技術、分野知識が分散し、相談対応が属人的になりやすい。

共通言語が不足する

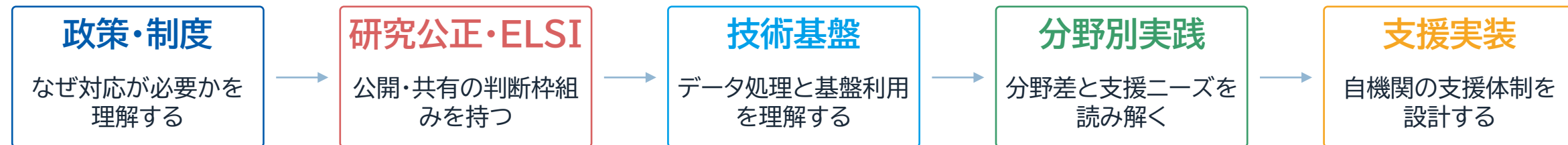
研究者のニーズを支援部門の言葉に翻訳する仕組みが弱い。

継続的な育成が必要

単発の説明会ではなく、事例・教材・ネットワークを共有する場が必要である。

「一人で全てを解決する人材」ではなく、「適切な人・制度・基盤につなぐ人材」を育成する。

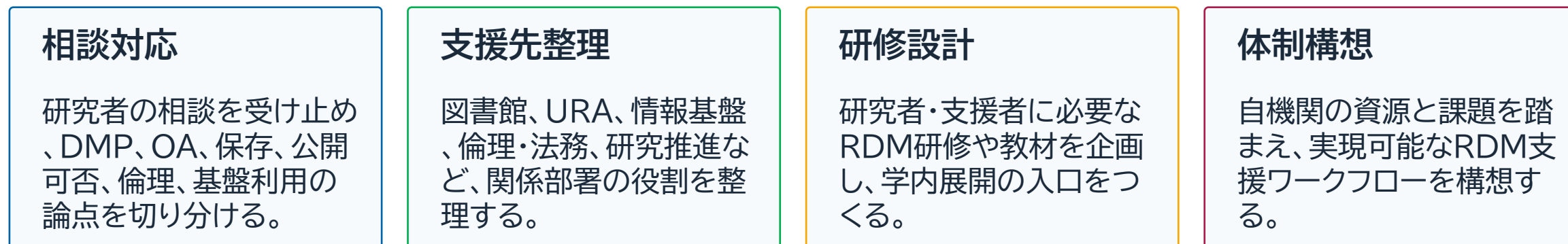
政策・倫理・技術・分野実践を段階的に学びます



知識習得 → 判断枠組み → 技術理解 → 分野理解 → 支援設計、という段階的な構成である。

修了後の到達イメージ

修了時には、次の4つを自機関の文脈で説明・設計できる状態を目指す。



プログラム・講師

2026.8.25

2026.9.18

2026.10.27

2026.11.10

2027.1

2027.2

国際動向・政策



大阪大学
甲斐氏

大阪大学
古谷氏

京都大学
沼尻氏

研究公正・ELSI



京都薬科大学
田中氏

大阪大学
榎本氏

大阪大学
長門氏

大阪大学
井出氏

解析・技術基盤 (データ処理)



大阪大学
吉賀氏

岐阜大学
清野氏

滋賀大学
戸簾氏

分野別実践 (デジタル・ヒューマニ ティーズ:DH)



大阪大学
吉賀氏

ベルリン自由大学
Söring氏

ベルリン自由大学
Wagner氏

分野別実践 (口腔医療情報・ スマート農業)



大阪大学
野崎氏

日本国際学園大学
丸山氏

データスチュワード型 支援の設計と実践



アイントホーフェン
工科大 角南氏

広島大学
平田氏

大阪大学
甲斐氏

ウィーン大学データスチュワード養成コースとの対応関係

I 制度・倫理・資金計画
(RDM基礎知識)

II IT・データ基盤リテラシー
(技術的基礎知識)

III ライフサイクル管理
(FAIR原則と実装)

IV 支援設計・ニーズ分析・教育設
(RDM支援の構築)
V プロジェクト型実践(統合演習)

まとめ:研究データ管理・利活用を支える4つの柱

制度対応を、研究者支援・基盤連携・実践知・人材育成の循環へ

- | | | |
|---|------------|------------------------------|
| 1 | 制度対応を研究支援へ | DMP・即時OAを負担ではなく支援設計の起点にする |
| 2 | 基盤をつなぐ | 研究データライフサイクルで接続する |
| 3 | 実践から学ぶ | 分野別ユースケースで、公開・共有・保護の論点を可視化する |
| 4 | 人材を育てる | データスチュワード型人材が、研究者・制度・基盤をつなぐ |

ご清聴ありがとうございました